

事業の背景・目的

屋久島の河川流域に残存している林齢150年以上の低地照葉樹林は種の多様性の宝庫である。しかしこの森の現状は林業開発などの環境要因に晒されており早急な保全が望まれる。本事業では生物多様性の保全に資する基礎データの収集を目的として植物相の調査を実施し、絶滅危惧種、国内指定種等の自生状況を詳細に把握する。こうしたデータを基に保全対策や保護指定の実現へ向けた方向性を提案し、恒久的な保全対策へ結びつける。島内全域においてヤクシカの個体密度が高いことから貴重性の高い希少野生植物の保護のためのシカ防除柵の設置や自生地環境の保全のための諸作業を行う。

事業の内容

・令和3年度交付金事業の概要 低地照葉樹林の生物多様性を把握する植生調査を行い、希少性の高い種はシカの防除柵設置により保全する。フィールドでの活動と併せて具体的な保護指定の検討を行い、計画を提案する。市民への普及啓発も含めて総合的な保全活動を進める。

ア 希少種分布状況調査事業
全島20河川流域において国内希少野生植物種等の希少植物の調査を実施した。保全のための重要性、緊急性の高い楯川、一湊川、花揚川・鳴子川3流域では特に調査地点を拡充し、保護計画立案に資する基礎データを整備した。

イ 希少種保全事業
個体数が少なく絶滅が危惧される希少性の高い種を優先してシカの採食圧から保護する目的でシカの防除柵を設置した、既存の柵のモニタリングと柵内外の植生調査を行った。

ウ 保全検討会議事業
「高い植物多様性を擁する屋久島の低地照葉樹林の環境保全を求める要望書」を当団体と共に提出した「日本生態学会」・「日本植物分類学会」・「日本自然保護協会」とその後の状況について情報共有し、林野庁保護林担当官の現地視察に際しては現地の案内と状況説明を行った。また、的確な保全計画の策定に資するため、林野庁九州局の保護林検討会へ意見書を提出した。

得られた成果

全島域の河川流域をはじめとした低地照葉樹林内での希少種調査により新種、国内新産種、新産地などが発見され、今後も新たな知見が得られる可能性も高く学術的な成果も得られている。得られた情報を基に現地の実態に即した保護の担保が得られるように関係行政機関や学術的な研究者、機関とも連携して生物多様性を主幹とし、世界自然遺産の島の保全対策、保護制度の確立に向けて広範囲な取り組みを展開している。また、シカ防除柵設置により多くの希少種が良好に生育しており、自生地域内保全が推進され保全の実を結びつつある。



シカ防除柵設置作業



「アオイガワラビ」
国内希少野生動植物種指定